

湯沢CS通信

令和6年2月26日 第68号

(発行) 湯沢市教育委員会

学校教育課 CS担当

今年度の取組を振り返って

それぞれの学校で今年度最後の学校運営協議会が開催され、今年度の成果と課題を確認されたことと思いますが、CSディレクターの立場で今年度の取組を振り返ってみます。

〈CSのよみが現れた取組〉

○学校の課題解決に向けて、熟議を行う学校が増えていること

湯沢東小学校の実践

・テーマ「学校と地域がつながるにはどうしたらよいだろうか」

委員のほかに全職員が参加して熟議を行いました。熟議では複数の提案がありましたが、その一つである「公民館等で子どもの作品展示を行うこと」を實現できて、学校と地域のつながりを深める一助になりました。



弁天地区センターに展示された児童の作品

湯沢西小学校の実践

・テーマ「読書好きの子どもを育てるには」

委員のほかにPTA役員、教員が参加して熟議を行いました。熟議で示された提案を地域学校協働活動推進員の協力を得て、夏休み親子で読書キャンペーン、押し本ポップコンテストなど、読書に親しませる企画を計画して、課題解決に結び付けました。

皆瀬小・中学校の実践

・テーマ「保・小・中と地域が連携して実施する体育的イベントの取組、運営の可能性」

皆瀬小・中学校では、小・中合同で熟議を行いました。小学校五年生と中学校二年生が参加して、体育的イベントに対する自分たちの考えを発表しました。その提案を受けて、テーマに沿った熟議が行われています。今回の熟議では、課題解決には至りませんが、教育の当事者である小・中学生が参加したことに大きな成果があったと思います。

○学校の課題解決に向けて、学校運営協議会委員の主体的活動が増えていること

雄勝小学校の実践

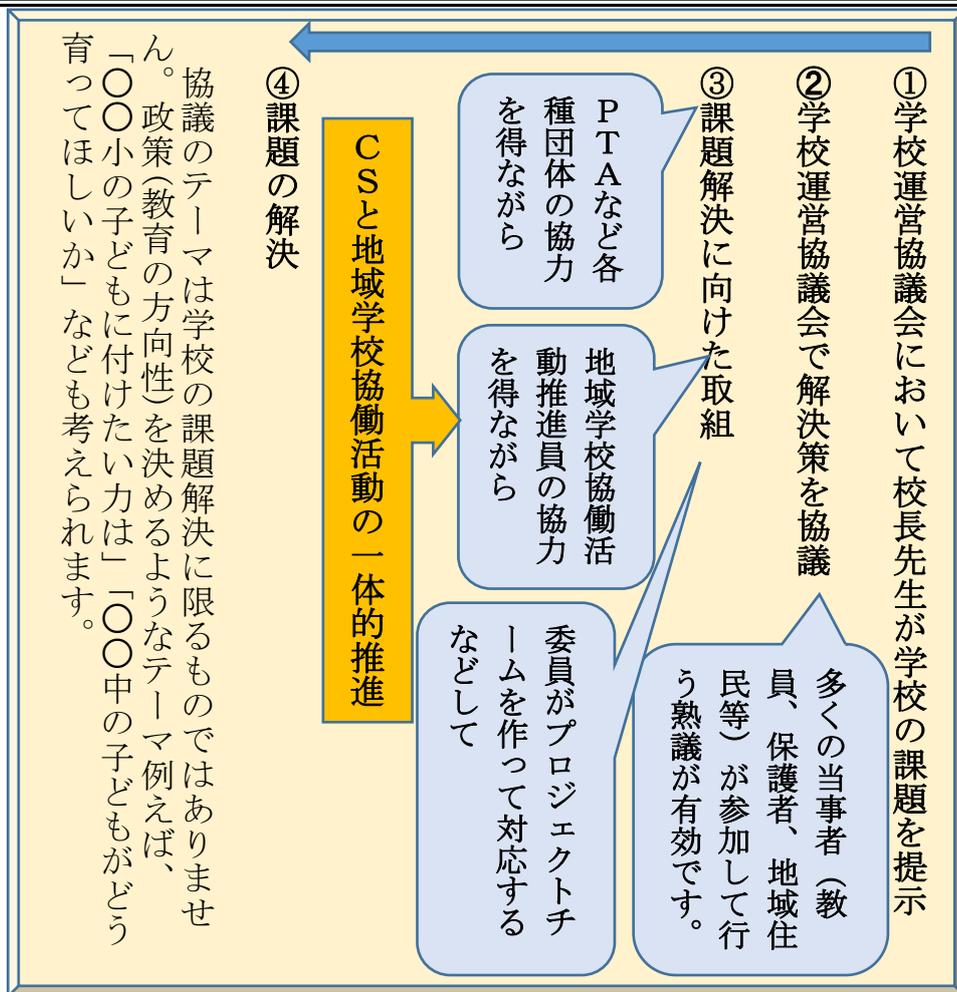
・校長が示した学校課題（キャリア教育の充実）解決に向けて、委員がプロジェクトチームを作って、カリキュラム開発や授業に積極的に関わり、成果を上げています。

雄勝中学校の実践

・校長が示した学校課題（生徒の発信力を高めること）解決に向けて、委員がプロジェクトチームを作って防災教室の企画・運営を行い、成果を上げています。

〈本市のCSをいかに一歩進めるために〉

○CSの取組として次のような流れを確立したいと思います。



協議のテーマは学校の課題解決に限るものではありません。政策(教育の方向性)を決めるようなテーマ例えば、「〇〇小の子どもに付けた力は」「〇〇中の子どもがどう育ってほしいか」なども考えられます。

○保護者、地域住民、教職員への周知活動を引き続き行う。教育委員会、学校、学校運営協議会委員それぞれの立場で周知活動を行っていく。

CSのよみ発見(パート3)

雄勝中・学校運営協議会の実践

二月十五日、雄勝中学校で「能登半島地震から学ぶ防災」をテーマに防災教室が行われました。講師に李仁鉄氏をお迎えして実施する予定でしたが、講師の先生が能登半島地震で現地に入られているためリモートで行いました。

防災教室は昨年度も行われましたが、今年度は、学校運営協議会委員がプロジェクトチームを作って、全体の企画、講師との事前の打合せ、生徒が当日使うシートの作成などを委員が行いました。発端は、第三回学校運営協議会で校長が学校の課題として「生徒の発信力不足」を挙げたところ、その解決を「防災教室」を一つの手段として行っではどうかという会長の提案でした。生徒が防災教室に参加して得た知識や感じたことを家庭で伝える活動を加えることで、地域全体の防災意識の高揚とともに、生徒の発信力の向上にも結び付くと考えました。

「今回の防災教室で、生徒が防災を自分事として考えることができただ。この活動を企画・運営してくださった委員の皆さんに感謝したい。ねらいの一つである生徒の発信力の向上に向けて、家庭での伝達をしっかりと行わせたい。」と伊藤校長先生がこの活動を振り返っていました。



グループワークに取り組む生徒